

後ご白しら河かは法皇ほうこうの宸影しんえいは来迎堂かういようだうの南長講堂ちやうかうだうにあり。当寺かうじは法皇ほうこうの御建立ごけんりつにして、時々御幸ごきやうありて、貴賤きせんを論ぜず叡聞えいもんに達たつする亡魂むしんを名帖なていに記し給ひ、常に御回向ごくわうありて御講ごかうを修し給ふ所なり、故に長講ちやうかうと称しける。〔平家物語へいけものがたりに曰、されば後白河法皇ごしらかはほうこうの長講堂ちやうかうだうの過去帳かこぢょうにも、祇王ぎぎ祇女ぎに仏刀ぶつとう自等じとうが尊靈そんりやうと四人にん一所いしよに入られたり〕